

第 6 8 回  
東北地方交通審議会  
船員部会議事要録

平成 2 6 年 6 月 2 7 日  
東北地方交通審議会  
船員部会事務局

# 東北地方交通審議会

## 第68回船員部会

日 時 平成26年6月27日（金） 15：30～

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員：長谷部部会長、村上部会長代理（欠席）、箭内委員、  
船津委員

労働者委員：高橋委員、正路委員、野田委員

使用者委員：鶴本委員（欠席）、佐藤委員（欠席）、湯村委員

運輸局：矢島海事振興部長、村木海事振興部次長  
遠藤海上安全環境部船員労働環境・海技資格課長  
鈴木海事振興部船員労政課長  
佐々木労政係長

議 題 （1）管内の雇用等の状況について

（2）その他

配付資料

資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料（平成26年4月分）  
資料2 新規求人・求職数（東北管内：3年対比）  
資料3 有効求人・求職数（東北管内：3年対比）  
資料4 新規求人・求職数（全国）  
資料5 有効求人・求職数（全国）  
資料6 有効求人倍率（東北管内）  
資料7 有効求人倍率（全国）  
資料8 最低賃金の改正に関する検討資料  
資料9 自衛官の海技資格取得関係  
資料10 新聞情報

## 議 事 概 要

### ◎開 会

【村木海事振興部次長】

〔第68回船員部会の成立について報告〕

〔配付資料確認〕

### ◎議 事

(1) 管内の雇用状況等について

〔船員労政課長より資料1から資料7に基づき報告〕

【長谷部部会長】

はい、ありがとうございました。何か、ご意見ご質問等ございますでしょうか。

【湯村使用者委員】

資料1の6ページ（職種別取扱件数調べ）ですが、「まかない」はどこの区分に入るのでしょうか。

【鈴木船員労政課長】

はい。「まかない」は事務部に入ります。

【長谷部部会長】

よろしいですか。（「はい」の声あり）

他に、ご意見ご質問等ございますでしょうか。

では、無いようですので、ご承認いただいたものといたします。

(2) その他

【長谷部部会長】

続きまして、議題の(2) その他ですけども、前回の部会において事務局の方から退職自衛官の再就職支援に関するご説明をいただきましたが、それについての追加の情報を事務局からいただくということでもよろしくお願いいたします。

【遠藤船員労働環境・海技資格課長】

今お話がありましたとおり、前回の新聞情報の中に退職自衛官の資格関係の記載ありましたが、その時は、私も内容が良く分からずお答えできなかったのですが、その後、確認をしてみましたところ、海上自衛隊の第1術科学校と第2と2つあるんですけども、そこを終了された方については、登録養成施設であり筆記免除となります。

それからもう一つは、乗船履歴のカウントの方ですけども、自衛隊さんは色々な名前の艦船がございまして、護衛艦、掃海艦、輸送艦、それから潜水艦と色々あるんですけど、その中に色々な職務で乗っている方がおられまして、海曹士、あとは幹部の方、その中でも運航に関わっている或いは機関の方の業務に関わっている方、そういった方の細々とした色々な職名があるんですけども、そういった職名や船の一覧表が毎年、本省から送られて来まして、それに基づいて乗船履歴の確認をしているということでございます。

あとは、前回の新聞情報に関連して、退職自衛官の補助のスキームがあったとい

うことでお話をさせてもらったんですが、去年のこの部会の中でも話題というかお話があった退職自衛官について、一定の要件を満たしたうえで雇用した場合、申請をすれば補助するスキームがありましたので、参考まで出させていただいたという次第です。以上です。

**【長谷部部会長】**

ありがとうございます。使用者側の方からもかねがね言われていた自衛官の就職に関して頑張っているよということと、資格に対しても一定の便宜が図られていますよとこういう話ですね。どうもありがとうございます。

湯村委員、何かございますか。

**【湯村使用者委員】**

ありがとうございました。

**【長谷部部会長】**

どうもありがとうございました。

それでは、次に、最賃に関する話でいいですか。

**【村木海事振興部次長】**

資料8につきましては、以前要望がございまして、資料提供ということで参考まで添付させていただきました。本日の審議事項ということではございません。

**【長谷部部会長】**

あくまで資料提供ということですね。全体の、何かの動きがあった時に皆さんの方からのご意見を頂戴したいと思います。今日はそういうことでよろしく願いたします。

それでは、委員の皆さんからの情報提供ということで、労働者委員の方から情報等、よろしく願いたします。

では、高橋委員、お願いします。

**【高橋労働者委員】**

今月の24日から26日、3日間FOC・POCのキャンペーンを行いました。対象港としましては、八戸、酒田、秋田港の3港で実施しまして、八戸港で5隻、酒田港で3隻、秋田港で1隻、訪船活動をしております。その中で、6隻が組合に加盟している船、あと1隻が未組織船、あとがFOCということで、ITFの基準を満たしていないということで警告文を出しております。あと、海上労働、MLC2006の発行に伴って海上労働の認定書、パート1、パート2の方を確認しております。全船所持しておりました。

あと、もう一つが、これは6月21日付の河北新報に載っていたんですけども、アメリカの国務省、世界各国の人身売買の実態をまとめた次年度報告書というのが公表されているんですけども、この中で各国の取り組みを4段階に格付けした中で、日本は上から2番目の評価に据え置いたということです。この中で一番気になる部分が、技能実習生で来日した人も含め、外国人労働者が強制労働の被害者になりやすい実態があると説明されているということなので、これと合わせてILOの会議でも、うちの方も出席しているんですけども、その中で均等待遇を求められています。もう殆ど欧米の方では均等待遇しているということで、世界的な流れになっています。やはり同じ職場である以上は同じような待遇をして下さいということで

す。今、移民制度をとっていないのが日本と韓国みたいなんです。あと、他の国は移民制度をとっていて、同じような均等待遇をとっているということです。

【長谷部部会長】

実態としては厳しい、実際そうなんですか。

【高橋労働者委員】

いや、流れるにはだんだんそういうようになってくるでしょう。均等待遇が求められるでしょうね。今、結構日本人と外国人の賃金の差というのはあり、技能実習生に関しても結構な賃金差がありますので、要は陸上の最低賃金があります。漁業にもありますけれども、それに合わせた賃金にして下さいというようなことになると思います。

【長谷部部会長】

そうすると、日本船による日本人船員の雇用というのは、増えることになるんですか。

【高橋労働者委員】

もう変わらないということになります。

【長谷部部会長】

どっちもですか。

【高橋労働者委員】

どっちもです。だから、経営者にとってはメリットがなくなると。そうすると、自ずとどちらを使うかというようなことになってきます。

【長谷部部会長】

というところに希望を見出しているわけですか。

【高橋労働者委員】

そうですね。

【長谷部部会長】

はい、分かりました。ありがとうございます。

湯村委員、何かありますでしょうか。

【湯村使用者委員】

それでは、人材不足の影響が各方面に出てきている状況がありまして、1つは、ちょっと古い話ですけども、京都議定書以来、モーダルシフトを推進しようということで、随分業界を挙げて取り組んできたんですけども、いつかはモーダルシフトなんていうように言われるぐらい全然進まなかったんですけども、ここに来てトラックドライバーの不足という問題から、500キロを超えるような輸送区間なんですけども、内航船や鉄道の方に荷物がシフトしてきているという状況が見られています。CO<sub>2</sub>の排出量も当然減るので環境にもよろしいですし、非常にいいことなんですけども、他に人材不足による影響を見ますと、なかなか船員の引き抜きとかそういったことも西の方では頻繁に起きているようで、何とか賃金を上げることで留めようという動きが出てきて、それに伴って運賃、用船料が若干上向いてきているといったことも見られます。

あと、以前から東北の復興工事で非常に需要が高かったセメントとか骨材なんですけど、ここ2~3ヶ月、人材不足の影響で動きが鈍くなってきています。砂利とか

そういったものが山積みになってさっぱり消化されないような状況が起きているということで、人材不足とか計画の見直しというのも色々あるようで、そういった影響もあるんでしょうけども、そういった状況ですね。

あと、内航の人材不足、船員不足につきましては、ちょっと小耳に挟んだ話なんですけども、新造船が就航したにも拘わらず、乗り組み船員の手当てがつかないで就航できない船が2～3隻あったというような話も耳にしています。

【長谷部部会長】

ありがとうございます。それに対して労働者側の方から何かありますか。

【高橋労働者委員】

確かに求人・求職情報にもありますとおり、求人は多いんですけども、求職の方がなかなかいない、というのが実態ではないのかなと思っています。

【長谷部部会長】

商船関係はそうですね、東北は。はい分かりました。

これは、この1ヶ月ぐらいの感覚ですか、感覚的には。

【湯村使用者委員】

2ヶ月ぐらいですかね。

【長谷部部会長】

この4月の状況は、大体その延長上に来ているという話ですか。

【湯村使用者委員】

4月はちょっと特別で、消費税の関係の反動から若干荷物も減ったりとか、先ほどの資料の中にも見られましたとおり、求人が減ったというのもそういった影響もあるのかなと思っていたんですが、思ったほど反動が少なかったというのはありました。

【長谷部部会長】

実際もそうですか。消費税の影響、大したことはないというか一般的にはそんなもんだと。はい分かりました。ありがとうございます。他にございますか、野田委員。

【野田労働者委員】

気仙沼の方では、4月から6月で船舶職員の養成講習がありまして、16名が最終的に試験まで行ったんですが、16名中14名が4級、5級、6級の海技免状を取得しました。その中で、当初17名だったんですけども、1名は講習についていけなくて脱落したという人がいました。これも今後の船舶職員の増加にちょっといいニュースかなと思っています。年齢的には、結構20代が半分以上を占めていましたので、将来的にはいいのかなと思っています。

【長谷部部会長】

ありがとうございます。

他に何かありますか。正路委員はよろしいですか、今日は。

【正路労働者委員】

今日はいいです。

【長谷部部会長】

ありがとうございます。

他にございますでしょうか。今日はスピーディーに進んでおりますが。

何もなければ終わりということになりますますがよろしいですか。

はい、正路委員。

**【正路労働者委員】**

新聞情報の5ページにあるんですけども、福島地元産で、冷凍マグロを小名浜の方で初水揚げをしたということで、まず船が「もうかる漁業創設支援事業」で新造し、その処女航海で清水港に水揚げをして、残りの30トン余りを小名浜の方で水揚げをしたという記事です。その後、地元の人たちにも船内見学をさせて、できるだけ漁船員の候補者ということで「いわき海星高校」の生徒たちも内覧をしたということです。実は、それ一回っきりということではなく、次の航海も何か計画をしているみたいですね。ちょっと福島の方、余りいい雰囲気ではないので、復興の糧になればということで計画をしたそうです。以上です。

**【長谷部部会長】**

ありがとうございます。色々な試みがなされているということで、これももう少し頑張っているなという話ですね。

**【正路労働者委員】**

はい。

**【長谷部部会長】**

どうもありがとうございます。他にはいかがでしょうか。よろしいですか。

**【船津公益委員】**

新聞情報の35ページの船員教育機関の海上就職状況について補足させていただきますと、海上就職率と海技教育機構、上の方に見出しが9割超を維持ということが書いてありまして、それで本文が始まりまして、「それによると」の後に色々書いているんですけども、「海上技術学校及び海上技術短期大学校96.3%」とあります。この96.3というのは、大体1クラスに40名いるとして、1人違う方向に行ったらここでもう2.5%ですから、中には海上自衛隊に行きたいという者が出たりしますので、これは、ほぼマックスでこれ以上はなかなか上がらないという状況で、かなり頑張っている数字だと思います。

**【長谷部部会長】**

ありがとうございます。安心していいよということですね。

どうなっていくんでしょうね、今後が楽しみです。

**【船津公益委員】**

それから、新聞情報じゃないんですけども、私ども、5月から6月にかけて東北の高校を学生募集で訪問しまして、進路指導の先生たちと話している訳なんですけど、その時、今年といたしますか…、今年だけの話ではないと思いますけども、大体傾向として言われるのが「就職希望者が増えています。船員だけじゃないですよ。進学者に対して就職者が増える傾向にあります。」というのを殆どの学校で言われます。

それは経済的な面もあるでしょうし、まだ良くは分かりませんが、今まで進学率が上がってきていたんでしょうけども、ここで傾向が変わっているのを我々に言われます。特に県内ですね。進学の場合は県外に出る者もいるんですが、「就職の場合は、もう県内の傾向がより強くなりました。」ということを高次の進路担

当者は言われます。

【長谷部部会長】

大体みんな就職できているんですか。

【船津公益委員】

はい。就職は、かなり良くなっているみたいですね。特に、今年は求人が出そうですというところで、それもあって就職希望者が増える傾向にあるのかもしれませんが、何か就職についてはかなり楽観視じゃないですけども、高校の方からは（就職）し易くなったということを言われます。「以前は就職できなくて進学するという者もいたけれども、就職がし易くなったから就職の方に流れたというのもあるかもしれませんが。」とも言われます。ちょっと新たな傾向かなと思います。

【長谷部部会長】

ちょっと初耳でもありました。ありがとうございました。

【高橋労働者委員】

今の情報に関して、35ページの下の方に去年と比べて65人ほど枠は増えているんですよね。

【船津公益委員】

海技教育機構の…。

【高橋労働者委員】

20名ですね。20名増えているんですが。

【船津公益委員】

はい、以前は380名だったんですけれども、23年に30名減らして350名にしていたんです。それを、唐津の海上技術学校と館山の海上技術学校がそれぞれ10名ずつ増やしまして370名にしております。

【長谷部部会長】

入学定員を増やすと先生も増えるんですか。

【船津公益委員】

はい、そうなんです。大体30名校と40名校で教員の定員が2名違いますので、2校で10名増えているんですけども、教員の定員が2名ずつ増えているということです。

【長谷部部会長】

供給体制も増えてきたということで、労働側からすればいい情報なんですね。

【高橋労働者委員】

ただ、入学したのは、去年より少なかったということなんですね。

【船津公益委員】

そうですね。そこはちょっと皮肉な結果になっております。

【長谷部部会長】

最後落ちがついたということですね。

【船津公益委員】

受験者は増えているんですけどもね。

【高橋労働者委員】

（入学）辞退者が増えているんですよね。



【長谷部部会長】

辞退者ですか。

【船津公益委員】

色々ありまして、実際、卒業した後の実習があるんですけども、乗船実習、練習船に乗っていきますが、その乗船実習の枠というのがありまして、むげに増やせないところもあるんです。そののところ、慎重に入学時点の数を絞っておりますもので、なかなかぼつといかないところもあります。プラスして上げてしまうと練習船で実習できないという場面があり得ますから、練習船が1隻、大成丸という船が代替えになったんですけども、その時に実習船の乗船定員が減っているんです。そういうこともありまして、ちょっと苦しいところなんです。

【長谷部部会長】

それで、入れていないということですね。

【船津公益委員】

そうですね。だから、あまり上の方を用心したところ、ちょっと落ちちゃったということなんです。

【長谷部部会長】

そういう話なんですか。

【船津公益委員】

辞退ではないと思います。

【長谷部部会長】

なるほど、分かりました。

【船津公益委員】

定員も、370名のところを372名ですから、少し超えているというところですよ。

【長谷部部会長】

ちょっとしたところは、あまり深刻に考えないで下さいということですね。ありがとうございます。よろしいですか。

はい、貴重な情報提供ありがとうございます。

もし、他にございませんでしたら、今日はこれで議事終了とさせていただきたいと思っております。

◎閉 会